令和3年度探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業の取組

２月１８日

第４回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会（県）

県主催の３回目の会議もオンラインで行われました。
今年度最後の回では,奈須正裕先生の講演と実践報告シンポジウムそして,中間報告会でした。
奈須先生の講演会では,私たち指導者が「ショック」を受けたところです。

奈須先生の講演より・・・

「子どもの求めによる単元になっていますか？」
先生は,「解決させたい！学ばせたい！」と思いすぎ。
子どもたちがしたいことをしたいときに，問題が生まれる。
ハードルを上げれば,勝手に問題が出てくるもの。子どもたちは,
よりよいくらし，よりよい生活をするために，学習している。
経験単元になっていれば，自動的に探究になっていく。

その経験単元をイメージしやすくするために,「デューイの実験学校」や今から 36 年前の「40 人のタイヤのり」「私たちの段ボール迷路」などの例を挙げられました。これは,校内研修で全員で視聴するとイメージの共有ができるなと思いました。

そして,単元構成について,今，総合的な学習の時間や生活科に求められるのは,経験単元！であることを再確認。　私たちは,ルーブリックをはじめ,指導者の手業の研究に力を入れすぎていたのかもしれません。

教材単元	経験単元
国語や算数などの教科	総合的な学習の時間　生活科
内容→活動 先生が準備した活動を子どもにやらせるのが難しいから，導入の工夫が必要。	活動→内容 この活動の先にある価値ある内容：学びに行くところが，難しい
子どもにさせる活動が決まっているので， 鋭角的な教材研究	子どものする活動が多様で，なにが飛び出すか分からない。子どもに一人ひとりがどんな反応をするか，予測しながら教材研究する。 拡散型の教材研究（ウェビング）が必要

実践報告シンポジウム	中間報告会
東広島市立福富中学校区　尾道市立長江中学校区　の2中学校区の実践報告がありました。どちらの学校も教材研究をよくされているところが魅力でした。	**県内の指定を受けた中学校区の代表者が,今年度の取組を 15 分間のパワーポイントにまとめ，5グループに分かれて,中間報告として発表しました。 みなさんが,どんな取組をされているのか,情報収集するために,三校の先生方で割り振って,後日交流することとしました。**

みなさんが,頭をひねりながら,取り組んでいらっしゃることがよく伝わってきた一日になりました。